

平成29年度大学院地球社会統合科学府

修士課程（冬季）入学試験

入学試験問題

⑭ 歴 史

注意事項

1. 問題は「はじめ」の合図があるまで開けないこと。
2. 試験開始後、解答用紙に受験番号等を明記すること。
3. 解答用紙は、必ず全部提出すること。
4. 問題冊子は持ち帰ってよい。
5. 指定の解答用紙を用いること。

問題 1 は共通問題です。必ず解答してください。

問題 2 は選択問題です。問 A ・問 B のいずれかを選び、解答してください。

解答用紙は計 2 枚あります。解答は問題 1、問題 2 それぞれ別の解答用紙に記入し、計 2 枚を提出してください。

問題 2 については、選択した問題の番号を明記してください。

## 問題 1 (100 点)

### 共通問題

村井章介『境界史の構想』（敬文舎、2014 年）には、次のような記述がある。

近代の国際社会は国民国家を理念上の構成員とし、各国家は「国益」の追求を至上の任務とした。近代歴史学はこの思考を過去に投影し、国民国家の成立——日本史においてそれは明治維新に求められた——にいたるあらゆる歴史を、国民国家の枠組みにおしこめて理解しようとした。これを「一国史」とよんでいる。

（中略）

戦後の歴史学において、日本史を「一国史」の枠組みから解き放とうとする試みは、しばしば「東アジア世界」をあいことばに行われてきた。では「一国史」の非歴史性をうち破るために、「東アジア世界」論はどの程度有効な視点を提供できただろうか。

この文章に登場する「東アジア世界」論について、その有効性と問題点について論じなさい。

## 問題 2 (100 点)

### 選択問題

#### 問 A

東アジアの前近代史において、他者認識の形成を考える上で重要と思われる史料をいくつかあげ、その特徴を論じなさい。

#### 問 B

「大日本帝国憲法」と「日本国憲法」の制定過程と内容を比較して論じなさい。